資料２－１

（会議後公表）

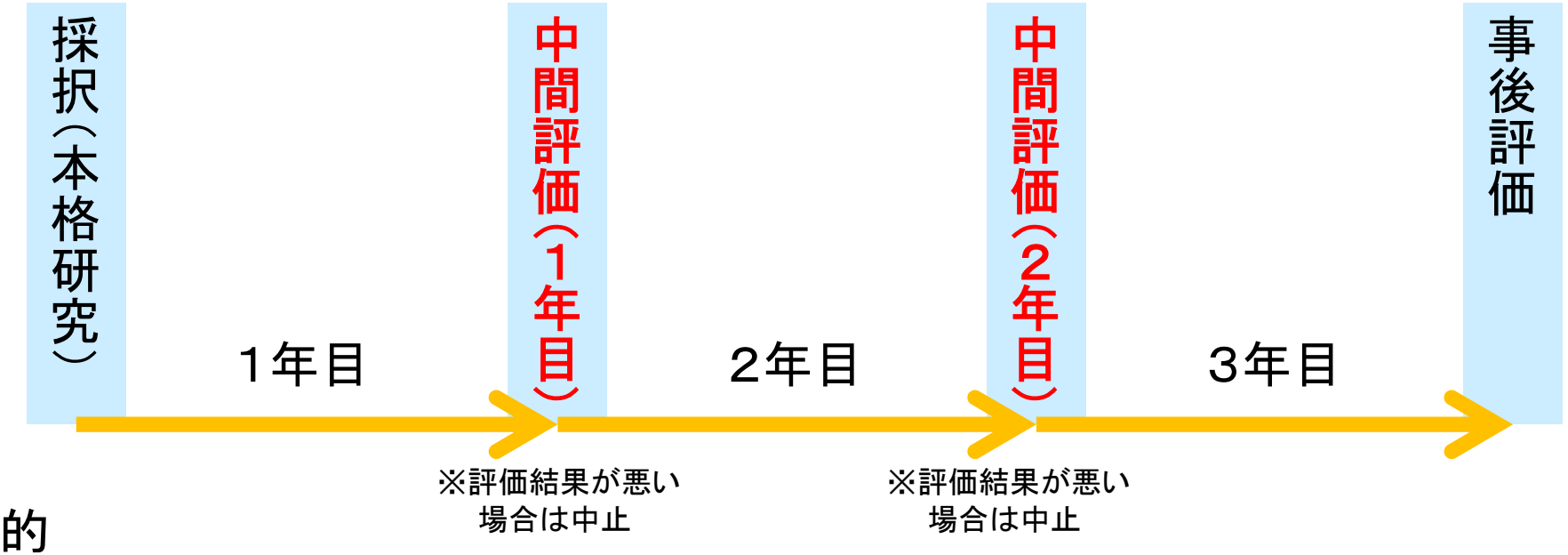
令和8年度継続課題の中間評価の実施方針案について

（概要）

本格研究の中間評価の位置付け及び目的

■ 位置付け

本格研究の採択～評価の流れ（研究期間3年の場合）



■ 目的

中間評価（本格研究）
研究の見通しや進捗を評価し、以下を図る。 ・研究の適切な実施 ・次年度以降の研究費の適正化

中間評価の手順（スケジュール）（案）

⓪ 研究状況報告書の作成　（9月下旬～11月下旬）

① 書類の事前査読（書面による評価）　（～1月中旬頃）

- 事前査読を実施
- 委員からの質問・コメントがある場合は、研究代表者へ事前に連絡。

② 研究評価会の開催（ヒアリングによる評価）　（1月下旬～2月上旬頃）

- 分科会毎に研究評価会を開催（1課題あたりの時間は、報告10分、質疑10分）
- 報告・質疑を踏まえ、分科会各委員は各課題の中間評価シートを作成。
- 各委員からの中間評価シートを基に、中間評価（案）を作成するための審議を実施。

③ 中間評価（案）の作成　（～2月下旬頃）

研究評価会後、分科会長は中間評価（案）を作成。

④ 中間評価の決定　（～3月上旬頃）

新道路技術会議において中間評価（案）を審議し、合議により中間評価を決定。

⑤ 中間評価結果の通知及び公表　（会議開催後）

- 研究代表者に書面にて通知
- 道路局ホームページ等において、研究状況報告書、研究概要と併せて公表

中間評価の視点及び基準（案）

■ 評価の視点

1年目の研究	
中間評価の視点	説　明
研究の 進捗状況	研究の目的に沿って、研究期間内に目指す目標を効率的かつ計画通り達成するため、研究計画、実施方法、体制（研究遂行における研究代表者の主体性の確保を含め）が適切となっているか。
研究の 見通し	研究の推進にあたり、研究期間内に目指す研究目標の設定、研究計画、実施方法、体制、共同研究者の役割分担が明確になっているか。

2年目の研究	
中間評価の視点	説　明
研究の 進捗状況	研究の目的に沿って、研究期間内に目指す目標を計画通り達成するため、1年目の評価結果を踏まえ、研究は適切に進捗しているか。
研究成果 の見通し	当初計画通りの研究成果が期待できるか（研究の進展により、独創的、画期的な研究成果が期待できるか）。 また、研究成果の活用方策が明確になっているか。

■ 評価の基準

中間評価の視点ごとの評価を踏まえ、研究継続の妥当性について、次の基準で総合的に評価を行う（次頁参照）。なお、研究期間内に目指す目標が変更された場合は、その変更の趣旨を踏まえて評価を行う。

- 例えば、研究開始後に生じた新たな事実の発見や社会情勢の変化等により、採択時（もしくは中間評価時）に目指した目標が変更された場合は、変更後の目標をもとに評価を実施。
- 一方、例えば、本人の責により、研究の進捗状況が思わしくなく採択時（もしくは中間評価時）に目指した目標の達成をあきらめて目標が変更された場合は、採択時（もしくは中間評価時）の目標をもとに評価を実施。

中間評価の視点及び基準（案）

評点	区　分	説　明
A	現行のとおり推進	研究は順調に実施されており、現行のとおり推進することにより、研究の目的に沿って研究期間内に目指す目標を十分に達成する見込みである。
B	現行のとおり推進 （指摘事項有り）	研究は順調に実施されているものの、研究の目的に沿って研究期間内に目指す目標を十分に達成するためには、評価者からの指摘事項に留意の上、推進することが必要である。
C	研究計画を 修正の上、推進	このままでは、研究の目的に沿って研究期間内に目指す目標を十分に達成することが期待できないと思われるので、評価者からの指摘事項を踏まえ、研究計画を修正の上、推進することが必要である。
D	中止	現在までの進捗状況に鑑み、研究の目的に沿って研究期間内に目指す目標を達成することが困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

令和8年度中間評価　対象研究テーマ及び担当委員（ハード分科会）（案）

No.	研究期間	委託研究テーマ（本格研究）	研究代表者	評価分科会	
				分科会	委員
①	R7-R9	生成AIと深層学習を活用した斜面災害リスク評価および統合監視プラットフォームの開発	京都大学 教授　安原　英明	ハード	・ハード分科会委員 ・道路局担当行政官 ・国総研担当研究官
②	R7-R9	自律型打音検査装置についての技術研究開発	九州大学 教授　横田　有為		
③	R7-R9	深層空洞に起因する致命的道路陥没抑止についての技術研究開発※	東京大学 教授　桑野　玲子		
④	R7-R9	道路陥没リスクを最小化する逐次更新型地盤監視統合プラットフォームの開発※	東京大学 教授　徳永　朋祥		
⑤	R7-R9	路面下空洞による地盤のゆるみ域とその拡大過程評価法の開発※	京都大学 教授　林　宏一		
⑥	R8-R10	可搬型中性子源システムによるPCグラウト充填不良及びアスファルト舗装内部層間滞水の非破壊3D計測・3D可視化についての技術研究開発	理化学研究所 ﾁｰﾑﾃﾞｨﾚｸﾀｰ　大竹　淑恵		

※R7年度追加募集に係る採択課題について、研究開始が年度途中となり、
1年目の研究期間を十分に確保できないため、今回が一度目の中間評価となる

令和8年度中間評価　対象研究テーマ及び担当委員（ソフト分科会）（案）

No.	研究期間	委託研究テーマ（本格研究）	研究代表者	評価分科会	
				分科会	委員
①	R7-R9	生活道路における工・心理・情報学の融合によるデータ循環型交通安全対策の研究	埼玉大学 准教授　小嶋　文	ソフト	・ソフト分科会委員 ・道路局担当行政官 ・国総研担当研究官
②	R7-R9	望ましい事業評価の指針策定にむけた研究開発	神戸大学大学院 教授　小池　淳司		
③	R8-R10	高速道路の車種区分の設定と車種別料金の算定方法についての技術研究開発	流通経済大学 教授　味水　佑毅		
④	R8-R10	移動するドローンによる広域交通状態推定についての技術研究開発	日本大学 准教授　川崎　洋輔		